

競争的研究資金制度の評価 《総合論点案》

1．競争的研究資金の効果的活用について

競争的研究資金を活用すべき研究開発にはどのようなものがあるか。科学研究費補助金のような「ボトムアップ型（科学技術主導型）」と、それ以外の「トップダウン型（政策主導型）」の制度が存在するが、各々で競争的研究資金の活用はどうあるべきか。

行政が継続的に取り組むべき調査研究等に競争的研究資金は活用すべきか。長期的かつ継続的な取組みが阻害される恐れはないか。

競争的研究資金とプロジェクト型研究資金の使い分けはどうあるべきか。両者の配分決定には、どのような要素を考慮すべきか。

各制度の戦略整合性や全体調整はどのように確保すべきか。

競争的研究資金はどのような方法で増額すべきか。増額の際に、留意すべき点は何か。

2．課題の採択と資金配分のあり方

小額研究費のばら撒きになっていないか。1課題当たりの適正な支援資金規模はどのように決定されるべきか。

研究資金制度の仕組みが、研究室単位で多くの申請を出させたり、研究資金の安定確保を目的に共済的な班研究を組む行動をおこしていないか。そうであれば、改善策はあるか。

研究者のエフォート管理や政府研究開発データベースにより、研究費の過度の集中等をチェックすべきではないか。政府研究開発データベースへの迅速な入力はどのように実現すべきか。

課題採択における評価者の役割は大きい。最適な評価者を選択するために、評価者データベースの整備や外国人評価者の活用等を検討すべきでないか。また、評価者の評価はどうあるべきか。

3 . 成果等の評価について

今回各配分機関が行った様々な評価方法を踏まえ、競争的研究資金制度の成果等の評価を今後どの様に実施すべきか。

- 投入費用に照らした成果の妥当性どう評価すべきか。
- 成果の学問的な評価には専門的判断が必要となるが、どのように行うべきか。
- 成果は長年の研究開発の蓄積の結果である場合も多く、特定の研究資金に帰属させることが難しいが、どう考えるべきか。
- アンケートは主観的な判断を定量化する有効な手法であるが、そのサンプル抽出で何に注意すべきか。
- 論文数や特許申請数などの数値指標は、数字が一人歩して研究者の行動をゆがめる危惧があるが、どう考えれば良いか。

あわせて、成果の社会還元を追跡してゆく取組みが重要ではないか。

総合科学技術会議として、今回評価する7制度の成果等をどのように評価するか。国民への成果等の説明責任はどのような方法で果たすべきか。